

時珍曰檨有二種、一種叢生、小者名枹音、一種高者名大葉檨、樹葉俱似栗、長大粗厚、冬月凋落、三四月開花、亦如栗、八九月結實、似橡子而稍短小、其蒂亦有斗、其實僵澀、味惡、荒歲人亦食之、其澀理粗不及橡木、木皮、俗名赤龍皮、

此說皆ドングリ也、主能モ瘡氣ニヨシ、然レバ赤龍皮ヲ久奴木ト訓ジテ、ドングリノ木皮ヲ可用也、

〔草木性譜〕蚊母樹 附 蚊子木 檨木 ○ 中

檨木は山中に多し、其葉春生じ、粗栗葉に似て鋸齒あり、夏葉間に花を生ず、櫛花に似たり、別に實を結ぶ、實の本に窠柏有て、其半を裹む、亦櫛子に似て大なり、夏中葉面葉背の脈道に全く實の如き者を生ず、初至て微小、後胡頹子の如く、深紅色白點あり、葉背の者は其色淺く、日光を受れば其色深し、是蟲窠なり、中空、虛秋に至り、心中に仁の如き者有て、其中に一蟲あり、冬羽化して出づ、

〔和漢三才圖會〕八十七 檨實 檨櫃子 俗云止牟久利 其木曰久奴木、日本紀用檨木字、訓久奴木、並誤也、

本綱、檨山林有之、木高丈餘、有二種、一種叢生、小者名枹、一種高者名大葉檨、樹葉俱似栗、長大粗厚、冬月凋落、三四月開花、亦如栗花、八九月結實、似橡子而稍短小、其蒂亦有斗、其實若澀、味惡、荒歲人亦食之、其木理粗不及橡木、雖堅而不堪充材、止宜作柴爲炭、

赤龍皮 檨木皮 苦澀 煎服除蟲及漏、止赤白痢、腸風下血、煎湯洗惡瘡、

按檨今云久奴木 其實今云止牟久利 一物二名、或云二物有少異、枹今云加波 灌木、而大葉婆娑者、本草及和名抄

皆相混註之、今立各條解之、

檨木葉似櫛子木、而葉至深秋黃落、其子似栗而小團、故俗呼名團栗、蒂有斗苦澀味惡 不可食、其樹皮赤色

粗厚、名赤龍皮者是也、倭方與忍冬藤同、煎用能治癰疔、其木不堪爲柱材、止宜爲薪、爲炭、攝州池田炭多檨也、